

天地も うごかすばかり

言の葉の まことの道を

きはめてしかな

明治天皇

この広大な天地をも

感動させるほどの

歌の言葉にこめる

人の心のまことの道を

深くきわめたいものである。

『明治の聖代』
(明治神宮)

祝詞「祝詞」への誘ひ 知識への誘ひ

祝詞とは、神様に捧げる「言葉」であり、神事で神様に願いや感謝をお伝えするときに、神職がご神前で唱えるものです。祝詞のはじめに、私たちがお恵みをいただいている神様への畏敬の念を込めて、「かけまくもかしこき」(声に出すのも畏れ多い)という、麗しい大和言葉が用いられています。祝詞には「言霊」という言葉に魂が宿るといふ考えが込められています。日本人は、言葉を単なる意思疎通の媒体ではなく、神々につながる神聖なものと考えてきました。神職は祝詞を奏上することで神様と

参拝者をつなぎ、神人合一と言霊の靈妙な力をもって、祈願成就のお導きをいただきます。但しそこに「誠」の実践が伴わなくては、その祈りは神様のもとへ届かず、願いは叶いません。「誠」は「まこと」「まは「真実」の、まことは「言葉や事柄」という意味で、日本の重要な価値の一つで、祭りにも欠かせません。神道では罪穢れを祓うことで「明き」「清き」心へ立ち返ると考えられています。その清明心は神々の心にも近づき、「誠」の道にも通じるものと考えられています。

神社は心のふるさと
未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>



文化の日(三日) 本来は「明治節(明治天皇のご誕生日)」。自由と平和を愛し、文化を進める日。
勤労感謝の日(二十三日) 本来は「新嘗祭(五穀豊穣に感謝する祭り)」の日。勤労を尊び、収穫・生産を祝い感謝する日。